

年・頭・所・感

共創の年にしよう

今年は元旦から能登半島で大地震が発生し、甚大な被害が報告されております。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、今後の復旧復興が一日も早く進みますよう、お祈り申し上げます。この広報誌が皆様の手に届く頃には、被害の全体像がほぼ明らかになっていることと思いますが、大規模な震災となってしまったことは誠に残念でなりません。

我々北海道の技術士は、被災地復興への協力はもちろんのことですが、来たるべき道内の災害にも備え、それぞれができることは何かを考え、取り組んでいくことが必要だと思います。

地域の防災を総合的に捉えるならば、そこには様々な技術が必要とされ、それぞれの専門技術を結集してこそ成り立つものですので、防災支援委員会を筆頭に、各部門の技術士の皆様の今後益々の奮起に期待するものであります。

さて、今年は、第50回技術士全国大会(札幌・北海道)が10月に開催されます。大会テーマは「共創の大地・北海道から始まる技術士の挑戦～ミライの豊かさを実現するために～」となっております。ここに掲げた重要なキーワードのひとつが「共創」という言葉ですが、何を隠そう、この言葉はChatGPTの意見も参考に決めてみました。

第6期科学技術イノベーション計画がスタートした令和3年から、産学官共創が全国の各大学研究機関などで実践され、定着してきておりますが、年初の経済人の賀詞交換会においても、TOYOTAの佐藤社長が今年のキーワードとして「共創」と力強く書いたフリップを見て、産業界でもずいぶん流行っ

金 秀俊(こん ひでとし)

技術士(応用理学/総合技術監理部門)

公益社団法人

日本技術士会北海道本部 本部長



てきたなあと感じましたので、生成AIの中ではすでにスタンダードな言葉として、我々の問いに答えるのは簡単なのかもしれません(秒で出てきます)。

技術士全国大会では、(1)技術者倫理、(2)防災、(3)脱炭素、(4)ミライの技術者という4つの分科会が開催されます。それぞれすべて技術士が今後も継続して活動し、社会貢献を実践していく上で必要なテーマですが、これらの分科会で様々な部門の技術士が多角的な視点で意見交換することは、参加者の技術の幅を広げ、資質向上に大きく寄与するものと考えます。これがまさに技術士会における共創の一端となるわけですから、大きく飛躍を遂げる1年にしようではありませんか。

北海道はいま、ラピダス社の千歳工場建設や石狩・苫小牧でのデータセンター新規建設など、IT関連産業が猛烈な勢いで発展中であり、併せて再生可能エネルギーを中心とする脱炭素化への動きも活発です。まさに技術者が輝く共創の大地・北海道に追い風が吹いています。

ミライの豊かさを実現するための大きな目標を持って、気候変動やエネルギー問題などの直面する課題を新たな知と共創により解決していかなくてはなりません。その取り組みこそが、将来の知識集約型社会(Society5.0)に対応したイノベーション・エコシステムを構築する鍵となるのです。

第50回技術士全国大会(札幌・北海道)は、技術士の責務である継続研鑽(CPD)を積みあげ、新たなチャンネルを増やすチャンスでもあります。会員、会友の皆様の積極的な活動参加を呼びかけ、年頭のご挨拶と致します。